

『魁』の魂

100年繁栄都市うつのみや

【 宇都宮の生い立ち 】

私たちが住み暮らす宇都宮市は、北西に日光連山、北に那須連山を望み、東に鬼怒川の清流、南には広大な関東平野がひらけ、美しく豊かな自然に恵まれています。奥州街道と日光街道の分岐点であり、交通の要衝として栄えてきた立地条件は、新しい文化や価値観の変化に対応し、地域に即した新しい「かたち」として創り出す市民性を育みました。また、各種交通網の拡充や内陸型工業団地の整備を積極的に推し進めることにより、北関東における商工業の中核拠点を創りあげました。

宇都宮JCは、1967年に「福祉社会の実現」を創始の精神に掲げ設立し、市民とともにまちを創ってきました。設立10周年の記念事業として始まった「ふるさと宮まつり」は2015年に第40回を数え、宇都宮市で最大のお祭りとして市民生活に深く根付いております。これは宇都宮JCが市民と一体となって創りあげた市民協働のまちづくりの成果であり、この経験がアジア最高位のジャパンカップサイクルロードレースの開催を実現させ、ロードバイクの文化を日本に芽吹かせた大きな要因となります。

【 未来への希望 】

「日本創成会議」が発表した2040年に自治体の過半数が消滅するという予測は、自分たちが誇りに思うまちを子や孫の世代に受け継ぐことができない可能性を含んでおりますが、宇都宮市では長期的視野に立ち都市空間そのもののあり方の見直しを進める中で、特色をもった地域間を連携することによりお互いのまちの役割を補完し、まち全体の魅力をあげる取り組みである「ネットワーク型コンパクトシティ」の形成を進めており、持続的な社会への礎を築いております。

宇都宮JCの使命は、市民の先頭に立ち市民とともにまちを創るために常に挑戦を続け、市民協働のまちづくりを進めていくことであり、全国大会は宇都宮市民に独自の文化を創りあげ発展してきた地域や精神性に対する誇りを奮い立たせ、持続的な社会を実現するための取り組みを加速するための契機となります。

我々は全国大会を通じ、古より宇都宮を形成してきた『魁』の魂を全国のメンバーに伝えることにより、100年先も繁栄し続ける地域社会の礎を築きます。